

県民総ぐるみの交通安全

交通事故の現況・問題点・対策



事故防止の決め手はモラル

交通の安全と円滑を確保し、悲惨な交通事故を未然に防止するためには、関係機関、団体、個人の努力もさることながら、やはり、県民一人ひとりの交通安全意識の向上が不可欠の要素です。すなわち、道路を利用する私たち皆んなが安全意識にめざめ、正しい交通ルールを実践することが事故防止の決め手となります。ここに掲げる交通事故の現況、問題点は、私たちが交通安全問題を考えるうえで、多くの示唆を投げかけてくれます。ともに考えてみたいものです。

交通事故の現況

(一) 交通事故は増加、死者は減少

昭和五十年中に発生した県下の交通事故は、発生件数八千九百六十一件、死者百七十三人、傷者一万二千六百十五人でした。これを前年と比較しますと死者では二十二人、十一・三パーセントの減少をみましたが、件数では四百四十四件、五・二パーセント増加、傷者も四百八十八人、四・四パーセント増加しました。これを月別に前年と対比しますと、件数で八月中にわずかの減少をみた以外は、件数・傷者とも四月以降に増加しています。このように増加に転じたのは、件数では二年八カ月、傷者では二年四カ月ぶりのことでもあります。

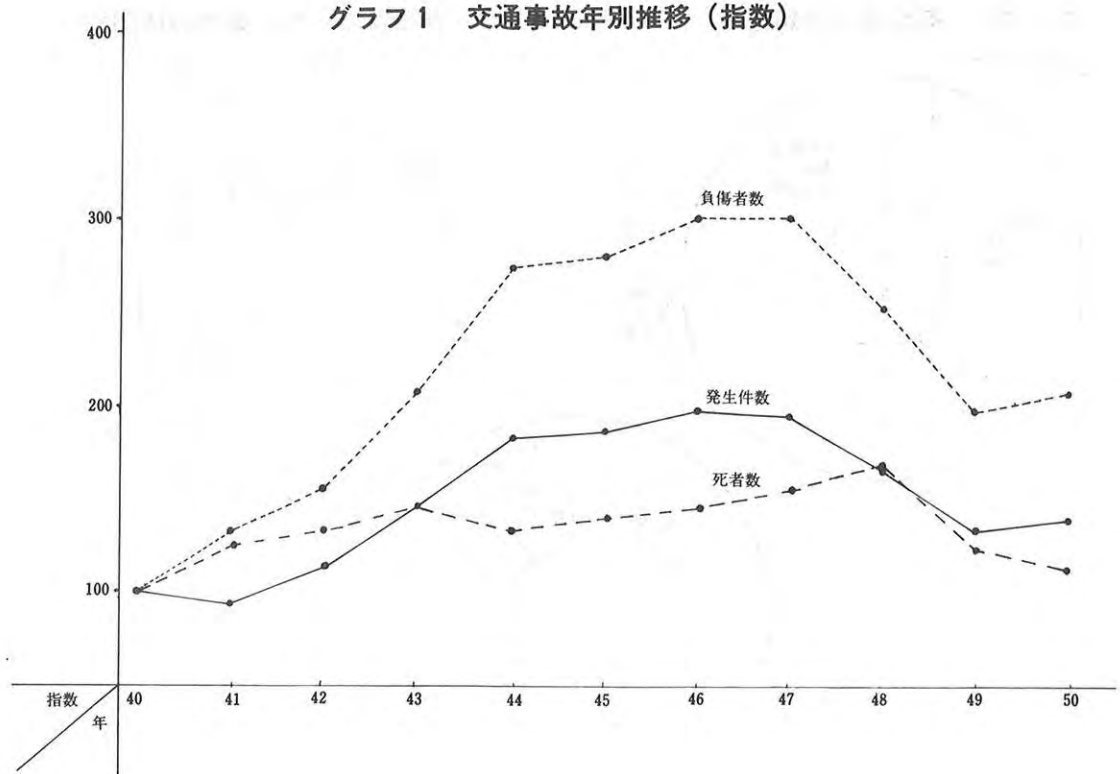
過去十年間の交通事故の推移をみますと、グラフのとおり死者では、昭和四十八年をピークとして下降しています。

(二) 全国平均よりも高い死亡事故率

交通事故による死者について、熊本、九州、全国の自動車一万台当り、人口十万人当り、免許人口一万人当り、道路延長千キロ当りの事故率を対比してみますと、自動車、人口については、それぞれ全国平均より本県の方が高率となっております。このデータから見ると、本県の死者数は他県と比較して、まだ少くないことを示しています。

死亡事故の分析と問題点

グラフ1 交通事故年別推移 (指数)



グラフ2 熊本・九州・全国事故率対比

